

# 南山だより



東京都港区元麻布3-8-15 TEL03(3403)5773 FAX03(3408)4532 MAIL:nanzan-es@minato-kyo.ed.jp

## 地域の中で子供は育つ

7月6日(月)の放送朝会で、次の話をしました。

赤い靴の女の子の名は「岩崎きみ」。きみちゃんは、幼い頃にお母さんからアメリカ人の夫妻に預けられます。この赤い靴の歌をつくった野口雨情さんは、自分の子が生まれてすぐに亡くしています。きみちゃんのお母さんは、この野口さんにアメリカ人の夫婦に自分の子を預けたことを話しました。

野口さんは、きみちゃんのお母さんの話を聴いて「きみちゃんはアメリカできっと幸せに暮らしていますよ」と話しながら、野口さんには赤い靴の女の子のイメージが刻まれ、「赤い靴」の歌ができたと言われています。

でも実際、きみちゃんはアメリカ人の夫婦に連れられてアメリカに行つてはいかなかったのです。きみちゃんのお母さんは自分が死ぬまで、きみちゃんはアメリカ人の夫婦と一緒にアメリカに行き、幸せに元気に暮らしていると信じていました。しかし、意外な事実がわかったのです。きみちゃんは、アメリカ人の夫婦と一緒に船に乗らなかったのです。アメリカ人の夫妻が、アメリカへ帰ろうとしたとき、きみちゃんは治りにくい病気になり、アメリカへ行くことができず、東京の施設にひとりで預けられたのです。3歳でお母さんと別れ、6歳で育てのアメリカ人の夫婦とも別れたきみちゃんは、たったひとりで病気と闘いました。そして、とても残念なことに、きみちゃんは9歳で亡くなってしまいました。



きみちゃんが亡くなった施設は、鳥居坂教会にありました。やがてこの施設は、十番稲荷神社あたりに移ります。この麻布十番の地で亡くなったきみちゃんを思うとき、赤い靴の女の子「きみちゃん」の心安らかなことを祈り、今、私たちの幸せを心から喜び、感謝しなければなりません。お母さんと子供の愛の絆と、みんなの幸せを祈って、建てられたのが麻布十番商店街のパティオ十番にある「きみちゃん」の像です。

「赤い靴」 作詞：野口雨情 作曲：本居長世

- |                          |                              |
|--------------------------|------------------------------|
| 1 赤い靴(くつ) はいてた 女の子       | 2 横浜の 埠頭(はとば) から 汽船(ふね) に乗って |
| 異人(いじん) さんに つれられて 行っちゃった | 異人さんに つれられて 行っちゃった           |
| 3 今では 青い目に なっちゃって        | 4 赤い靴 見るたび 考える               |
| 異人さんの お国に いるんだろう         | 異人さんに 逢(あ) うたび 考える           |

夏休みは、子供が家庭や地域の中で成長するチャンスです。有意義な夏休みを子供とお過ごしください。

## 通知表の評価が変わります

平成13年度までの成績処理は「相対評価」でした。「相対評価」(集団に準拠した評価)とは、個々が学年や学級などの集団において、どのような位置にあるかを見る評価のことを指し、5は全体の〇%などのように成績の人数割合が決まっていた。昭和生まれの方の通知表は、こうして作られていました。

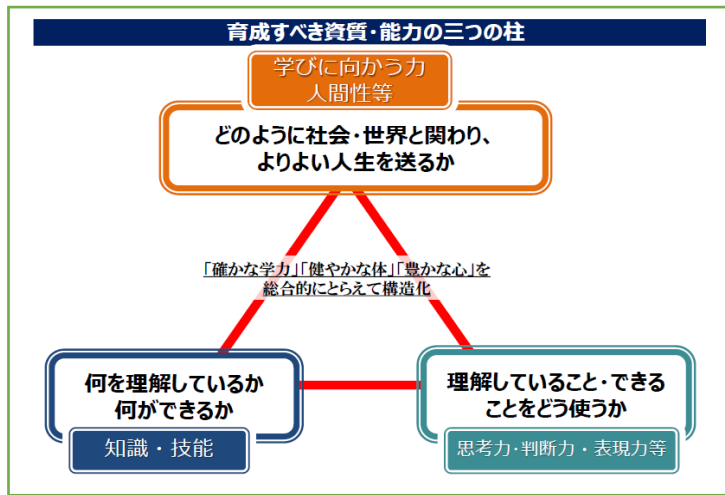
平成14年度以降の成績の付け方は「絶対評価」です。「絶対評価」(目標に準拠した評価)とは、学習指導要領に示す目標がどの程度実現したか、その実現状況を見る評価のことを指し、児童のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価しています。

学校は適正な評価を実施するために、各教科等の単元ごとに全員が達成すべき目標(概ね達成できた)を設定します。そして、学校は児童一人一人の可能性を積極的に評価し、豊かな自己実現に役立つようにすること、児童の学習状況の過程を的確に把握するようにした評価基準(十分に達成できた・概ね達成できた・達成が不十分である)を設定し、成績を付けています。評価基準は、児童の学習評価と支援において大変重要な資料であり、教員の授業改善につながる役割をもっています。

平成29年の改訂で学習指導要領の目標及び内容が、右記の資質・能力の三つの柱で構成されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点については「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されています。

## <育成すべき資質・能力>

## <旧>評価の観点



- 関心・意欲・態度
- 思考・判断・表現
- 技能
- 知識・理解



## <新>評価の観点

- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 主体的に学習に取り組む態度

### 「知識・技能」の評価

各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既  
有の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等  
を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価するものです。「知識・技能」におけるこのよ  
うな考え方は、従前の「知識・理解」（各教科等において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか  
を評価）、「技能」（各教科等において習得すべき技能を身に付けているかを評価）においても重視してき  
たものです。

「知識・技能」の評価の考え方は、従前の評価の観点である「知識・理解」、「技能」においても重視して  
きたところです。具体的な評価方法としては、例えばペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う  
問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図る等が考えられます。  
また、児童が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフ  
で表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくこ  
と等も考えられます。

### 「思考・判断・表現」の評価

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付  
けているかを評価するものです。「思考・判断・表現」におけるこのような考え方は、従前の「思考・判断・  
表現」の観点においても重視してきたものです。

「思考・判断・表現」の評価の考え方は、従前の評価の観点である「思考・判断・表現」においても重視  
してきたところです。具体的な評価方法としては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発  
表、グループや学級における話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたたり、それらを集めた  
ポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられます。

### 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するというのではなく、各教  
科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力、  
判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤す  
るなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要で  
す。従前の「関心・意欲・態度」の観点も、各教科等の学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学  
ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価するという考え方に基づいたものであり、この点を「主  
体的に学習に取り組む態度」として改めて強調するものです。

「主体的に学習に取り組む態度」の具体的な評価方法としては、ノートやレポート等における記述、授業  
中の発言、教師による行動観察や児童による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮す  
る材料のひとつとして用いることなどが考えられます。その際、各教科等の特質に応じて、児童の発達の段階  
や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた  
上で、評価を行う必要があります。

学校は学習指導要領が改訂されるたびにその趣旨を踏まえ、その都度、評価基準の見直しを図ってきま  
した。これは不変の学校文化でもあります。詳しくは、9月の保護者会にて説明します。